

村唯一 東京電力・伏田発電所  
昭和村ボランティアガイドの会

会長 倉澤 俊雄

テレビ番組の時代劇に見るように、江戸時代は電化製品や車はなく、人や動物の力が頼りだった。馬や牛で耕作したり、荷車で運搬をした。家事でも、川や用水・井戸水で洗濯したり、水をくんで薪を燃やして風呂を沸かしたりと、重労働であった。

また、電灯が広まる前はロソクの火や石油ランプ、ガス灯が主な照明道具であった。

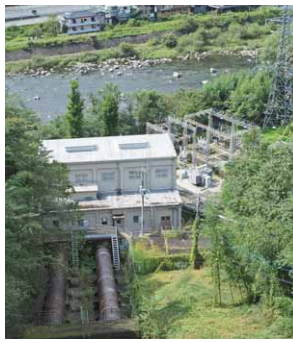
明治維新後、日本は西洋の科学技術を積極的に取り入れるようになり、今から143年前の明治十一年(一八七八年)3月25日に、東京虎ノ門の工部大学校(現在の東京大学工学部)のホールにアーク灯が設置された。これが、日本で初めて電灯が灯った日となり、以来、3月25日は「電気記念日」となっている。

明治時代の産業振興・富国強兵政策では、全国各地に電力会社が生じた。昭和村においても、利根沼田で最初となる永井沢発電所が明治四十一年に完成したが、経営困難により三年後に買収され廃止となった。その後、東京電力・伏田発電所が建設

された。

◎伏田発電所の概要

- ① 起工…大正十三年九月二十六日、② 竣工…大正十五年十月四日、③ 取水河川…利根川水系片品川、④ 取水口…昭和村大字貝野瀬、⑤ 放水口…昭和村大字川額伏田、⑥ 有効落差…二二五尺(約67.5m)、⑦ 発電力…二、〇〇〇キロワット、⑧ 水路延長…三、七二七間(約7km)、⑨ 調整池…二二六、〇〇〇立法尺(約6,011m)



伏田発電所と利根川

電力需要が急速に高まってく中で、水力発電をはじめ、火力、原子力、そして太陽光など地球環境にやさしい「再生可能エネルギー」が普及してきた。

なお、村唯一の伏田発電所などに対し、毎年、国から電源立地地域対策交付金が支給されている。令和3年度予算は、866万1千円となっており、村の貴重な財源である。

参考文献(村誌久呂保など)

地域包括支援センターだより

## 深刻な高齢者の消費者被害

見守りで防止しましょう！

### 【事例】

叔母が「通帳に3千円しか残っておらず、生活費が無くなった」とわたしの母に相談してきた。

母と一緒に叔母の家に行くと化粧品が山のようにあった。書類などを調べると、長期間にわたって契約していたようで、約5百万円も支払っていた。

叔母によると、担当から「こちらが質問することすべてに『ハイ』とだけ言うように」と言われ、

契約を強要されていたという。

(80歳代 女性)



少しでもおかしいと感じたら  
**188 (消費者ホットライン)**  
に電話しましょう！



- 消費者ホットラインはお近くの消費生活相談窓口をご案内します。

群馬県消費生活センター ☎027-223-3001

沼田市消費生活センター ☎0278-20-1500

- 家族や周囲の人が、日頃から高齢者の様子に気を付けることが大切です。

離れて暮らしている場合は、なるべく頻繁に連絡を取っておき、帰省の際などには不審な書面や大量の商品、困っている様子がないか確認するようにしましょう。